

国の文化審議会は、「一橋徳川家関係資料」(県立歴史館保管)と「長久保赤水関係資料」(高萩市歴史民俗資料館保管)を新たに重要

文化財(美術工芸品)に指定するよう文部科学相に答申した。夏ごろまでに答申通り指定される。

国重文へ2件答申

一橋徳川家関係資料

一橋徳川家は田安・清水両徳川家とともに御三卿と称され、十一代將軍家斉、十五代慶喜を出した。資料は、一橋徳川家から県に寄贈された文書・記録4017点、書画・典籍224点、器物460点、写真14点で構成されている。

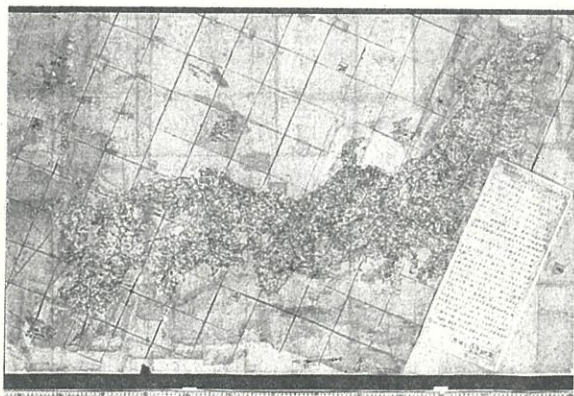
一橋徳川家の家格、家政、所領経営、幕政への関与、家の内外における儀礼の実際などをうかがうことができ、江戸時代の政治史、文化史、古文書学を研究する上で価値が高いと評価された。

長久保赤水(1717～1801年)は高萩市出身

長久保赤水関係資料

で、水戸藩の天文・地理学者。伊能忠敬の地図ができる42年前の1779年に、日本で初めて緯度をあらわす緯線(横線)と方位を示す方角線(縦線)を記した地図を作製したことで知られる。

重要文化財に指定される資料は、赤水の複数の子孫の家に伝わった地図・絵図84点、文書・記録279点、典籍274点、書画・器物56点。赤水の学問の内容、交友関係、生涯の事績を考えるのに最もまとまった資料で、江戸時代中後期の文化史、地図史などを研究する上で価値が高いと評価された。



①一橋徳川家関係資料「(書) [誠] 徳川慶喜 筆」=県立歴史館提供
②長久保赤水関係資料「改製日本扶桑分里図」=高萩市生涯学習課提供